

「全国アイメイト(盲導犬)使用者へのアンケート調査」報告書

2016.3.29

公益財団法人アイメイト協会

1. 調査概要

1) 調査の趣旨

- ・「障害者差別解消法」の施行（2016年4月1日）を目前に控え、同法の理念である差別の解消と障害者と健常者の「対話」に寄与することを目指して実施。
- ・全国で活躍するアイメイト使用者の生の声を集め、広く世間に伝えることにより、共生社会へさらに近付き、障害者と健常者がともに、より暮らしやすい社会に発展していくことを目指す。

【不当な差別を禁止する「障害者差別解消法」】

- ・「障害者差別解消法」では、障害を理由とする差別を、『不当な差別』（直接差別、間接差別、関連差別）、そして『合理的配慮の不提供』と規定しています。盲導犬を理由とした入店拒否は、車いすや補装具などの障害に関することを理由にして区別や排除、制限をすることとなり、『間接差別』と明確に規定されています。（『間接差別』には、一見中立的な基準に見えるが、結果的に障害者に不利な結果をもたらすものも含まれます。）
- ・また、「障害者差別解消法」のもう一つの特徴として、公共機関だけでなく、その対象を民間事業者にも広げたことが挙げられます。飲食店や商店、宿泊施設など、視覚障害者が日常的に利用する多くの商業施設において、そうした差別が解消されることが求められています。

2) 調査方法、期間

- ・自由記述方式によるアンケート調査（インターネット/郵送）
- ・設問数：計 15 問
- ・対象：全国の現役アイメイト使用者 259 名
- ・調査期間：2016年3月6日（土）～3月15日（火）
- ・調査会社：株式会社ユニ・プランニング

3) 回答数

- ・回収アンケート数：103
- ・有効回答数：102（男 54、女 46、性別の記入無 2）

2. 集計について

1) 集計の方法

- ・回答（自由記述）の内容に応じて項目に分類して集計しました。
- ・設問に対して回答内容が合致しない場合は、無回答として扱いました。

2) 順序の変更

- ・調査報告書の作成にあたって、質問/回答の順序を変更しました。

3) 集計表の表記

- ・回答数がゼロの場合、空欄表示としている場合があります。

4) 比率について

- ・比率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。
- ・従って、比率の合計が100にならない場合があります。

5) 複数回答設問の比率について

- ・複数回答設問については、有効回答数（102）を母数として比率を算出しています。
- ・「ある」と答えた方のみの設問については、「ある」と答えた人数を母数として比率を算出しています。
- ・比率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。
- ・従って、比率の合計が100を越える場合があります。

3. 設問一覧（計 15 問）

- Q1. アイメイトを得たことで、初めて行けるようになった場所がありますか？（いくつでも）
- Q2. アイメイトを得たから出来るようになったことで、最もうれしかったことを教えてください。
- Q3. アイメイトの健康管理で、日ごろから気を付けていることを教えてください。
- Q4. アイメイトと一緒に出掛ける際、使用者として気を付けていることは？
- Q5. あなたはこれまでに、アイメイト（盲導犬）を理由に嫌な思いをしたことはありますか？
- Q6. アイメイトを理由に嫌な思いをした場所はどこでしたか？（いくつでも。）
- Q7. その時、どのような対応をしましたか？
- Q8. 対応に時間がかかるなどした場合、誰か（第三者）に相談したりしましたか？
- Q9. 話し合った結果、どのような結論（対応）となりましたか？
- Q10. 嫌な思いをしたことで、自分の行動に変化が生じましたか？
- Q11. 嫌な思いをした場所（施設、店舗など）へ、その後も訪問していますか？
- Q12. 今後、アイメイトと一緒に行ってみたいところはどこですか？あるいは、新たにチャレンジしたいことを教えてください。
- Q13. アイメイトと一緒にいるからこそ、周囲の方をお願いしたいことはありますか？（具体的に教えてください。）
- Q14. 「障害者差別解消法」の施行によって、期待することはなんですか？
- Q15. 最後に、お名前、年齢、性別、職業、居住地域やアイメイト歴などを教えてください。
- ・お名前：
 - ・年齢：
 - ・性別：
 - ・職業：
 - ・居住地域（都道府県）：
 - ・アイメイトの使用歴：（例えば、何年から使用開始で現在何頭目など）
 - ・中途/先天（どちらかを選ぶ）・

1. アイメイト（盲導犬）を理由とした差別の経験**1) “嫌な思い（差別）”を経験した人は、全体のじつに9割にのぼる**

- ・アイメイト（盲導犬）を理由にした“嫌な思い（差別）”を経験した人は、じつに9割（91人、89.2%）にのぼった。

【表 1. 差別の経験】

■あなたはこれまでに、アイメイト（盲導犬）を理由に嫌な思いをしたことはありますか？

	人数	比率 (%)
ある	91	89.2
ない	11	10.8
記入無	0	0
合計	102	100.0

2) 約 8 割が、「飲食店（居酒屋、喫茶店含む）」での入店拒否を経験。

「宿泊施設（ホテル、旅館）」での宿泊拒否も約 3 割が経験。

- ・アイメイト（盲導犬）を理由にした“嫌な思い（差別）”を経験した場所で最も多かったのは、「飲食店（居酒屋、喫茶店含む）」（71 人、78.9%）。約 8 割の使用者が、入店拒否を経験している。
- ・また、次に多かった「宿泊施設（ホテル、旅館）」も 30 人と、3 人に 1 人が宿泊拒否を経験。以降、「病院」（18 人、20.0%）「タクシー」（12 人、13.3%）と続いている。
- ・「その他」の中には、『職場』『不動産屋（住まい探しの時）』『寺院、神社など』『自宅マンションの構内』などがあつた。

【表 2. “嫌な思い”をした場所】

■アイメイトを理由に嫌な思いをした場所はどこでしたか？（いくつでも。）

	人数	比率 (%)
レストラン（居酒屋、喫茶店含む）	71	78.9
宿泊施設（ホテル、旅館）	30	33.3
病院	18	20.0
タクシー	12	13.3
電車、駅構内*	11	12.2
路上	8	8.9
商業施設（物販）	8	8.9
コンサート、美術館、博物館、映画館	6	6.7
スポーツ施設、カラオケ店など	6	6.7
バス	6	6.7
スーパー、コンビニ（食品を扱う商業施設）	5	5.6
公共の施設（図書館、公民館など）	4	4.4
レジャー施設	4	4.4
日帰り温泉、入浴施設	4	4.4
飛行機	2	2.2
その他	8	8.9
記入無	3	3.3
合計	206	228.9

※複数回答可

※「電車、駅構内」に関しては、すべてが事業者による乗車拒否ではなく、他の乗客や駅構内での出来事。

3) “嫌な思い（差別）”を経験しても、行動は「変わらない」が約4割。

一方で、「その場所を避けるようになった」「新しいところに行きづらくなった」人も。

- ・“嫌な思い（差別）”を経験しても、自分の行動は「変わらない」と答えた人が最も多く、39人（43.3%）いた。
- ・また、経験を前向きにとらえ、「積極的に説明するようになった」（11人、12.2%）、「啓発活動に取り組むようになった」（8人、8.9%）、「マナーにより一層気を付けるようになった」（4人、4.4%）という回答もあった。
- ・一方で、「その場所を避けるようになった」（7人、7.8%）、「新しいところに行きづらくなった」（6人、6.7%）と、差別を経験したことで行動の自由が制限されてしまった人もあった。
- ・自分の行動は「変わらない」と答えた人でも、「初めて行くお店には、緊張する」「消極的になった」「同じところに行くことが多くなった」「一緒にいた息子が不憫でたまらなかった」といった報告もあった。

【表 3. 差別を受けた後の行動】

■嫌な思いをしたことで、自分の行動に変化が生じましたか？

	人数	比率 (%)
変わらない	39	43.3
積極的に説明するようになった。	11	12.2
啓発活動に取り組むようになった。	8	8.9
その場所を避けるようになった	7	7.8
新しいところに行きづらくなった	6	6.7
マナーにより一層気を付けるようになった	4	4.4
事前に盲導犬がいると電話する	4	4.4
その他	13	14.4
記入無（とくになし）	7	7.8
合計	99	110.0

※複数回答可

2. 入店拒否にあった場合、どのように対応しているか

1) “嫌な思い（差別）”を経験した際の対応としては、

「理解を得るため、その場で説明」が最多（68人、75.6%）

- ・アイメイト（盲導犬）を理由に“嫌な思い（差別）”を経験した際の対応としては、「理解を得るため、その場で説明」が最も多く、68人（75.6%）と使用者の4分の3がその場で理解を求めて説明を尽くしている。
- ・説明だけでなく、実際に「アイメイトの様子を見てもらう（6人）」ことで、店側の不安を解消しようとしている使用者もいた。その結果、お店を出る時に、「初めて盲導犬を見ましたが、とても静かでお利口さんだったのに驚きました。さすがプロの犬ですね。またのおこしをお待ちしています」と言われたという報告もあった。
- ・一方で、「だまって引き下がる」は17人（18.9%）。ただし、その場は引き下がっても、後日あらためて「役所等に相談」や「本社や本部へ連絡」といった形で、正しい理解を求めて動いている。

【表 4. 差別への対応】

■その時（嫌な思いを経験した時）、どのような対応をしましたか？

	人数	比率 (%)
その場で説明し、理解を得る	68	75.6
役所等に相談	20	22.2
だまって引き下がる	17	18.9
本社や本部へ電話	13	14.4
アイメイトの様子を見てもらう	6	6.7
アイメイト協会に相談	2	2.2
その他	11	12.2
記入無（とくになし）	2	2.2
合計	139	154.4

※複数回答可

2) 話し合いの結果、「入れるようになった」は、68.9%。一方で、「入れなかった」は43.3%。

- ・理解を得るために説明した結果、「入れるようになった」は、62人(68.9%)。7割近くのケースで、無知や誤解による拒否だったことが判明すると、その場で入れるようになっている。
- ・しかし、一方で、「入れなかった」も39人(43.3%)いた。店舗側の認識に間違いがあったことが判明しても、頑なに入れないところが約4割もあったことになる。
- ・店の理解不足を、その場に居合わせた客がフォローするといった心温かい事例もあった。例えば、「食堂で『他のお客様に迷惑がかかりますので』と断られたが、周りにいたお客様が『誰も迷惑だなんて言っていない』と教えてくださいました」「いつも乗り合わせている他の乗客が『静かでおとなしい犬だから大丈夫よ』とフォローしてくれた」「周囲にいた人たちが応援してくれた」といった報告があった。

【表5. 理解を得るために説明した結果】

■話し合った結果、どのような結論(対応)となりましたか?

	人数	比率 (%)
入れるようになった。	62	68.9
入れなかった。	39	43.3
その他	4	4.4
記入無	16	17.9
合計	121	134.4

※複数回答可。同じ使用者が同じように説明しても、入れるところと入れないところがあつたため、両方にチェックがついている場合がある。

3) 使用者の多くが、独力で解決を目指す(40.0%)が、どうしても難しい場合は役所等へ相談(27.8%)

- ・入店拒否などへの対応の際、基本的には「1人で考えて対処」(36人、40.0%)が最多。以後、「役所や障害者団体に相談」(25人、27.8%)、「アイメイト協会に相談」(10人、11.1%)と続く。

【表6. 第三者への相談】

■対応に時間がかかるなどした場合、誰か(第三者)に相談したりしましたか?

	人数	比率 (%)
1人で考えて対処	36	40.0
役所や障害者団体に相談	25	27.8
アイメイト協会に相談	10	11.1
アイメイト使用者(先輩)に相談	4	4.4
家族や友人に相談	5	5.6
本社や本部へ電話	2	2.2
その他	10	11.1
記入無	11	12.2
合計	103	114.4

※複数回答可

4) 入店拒否を経験した店への再訪は、「している」と「していない」がともに約6割ずつ。

- ・入店拒否を経験した店にその後も「訪問している」は54人(60.0%)。「訪問していない」は52人(57.8%)で、ともに約6割という結果となった。
- ・「訪問している」理由としては、「理解が得られたので」「利用する必要があるので」「生活のために」などが挙げられた。
- ・「訪問していない」理由としては、「気持ちよく利用できない」「対応は改まっても何となく気分が良くないので」などが挙げられた。
- ・さらには、「二度と行かない(行きたくない)」「嫌な思いをした場所にはもう行かない」と強く否定する使用者もあった。「何故か拒否したホテル、飲食店はその後閉店(つぶれている)」といった意見もあった。

【表7. 入店拒否を経験した店への再訪】

■嫌な思いをした場所(施設、店舗など)へ、その後も訪問していますか？

	人数	比率 (%)
訪問している	54	60.0
訪問していない	52	57.8
記入無(とくになし)	4	4.4
合計	110	122.2

※複数回答可

3. アイメイト使用者のマナー、心構え

1) 外出の際は、使用者としてマナーを強く意識。その内容は多岐にわたる。

- ・外出の際、使用者として気を付けていることとしては、マナー関連に意識が集中した。
- ・被毛が飛ぶことを防ぎ、清潔に保つための基本動作である「ブラッシング」が最多で 42 人 (41.2)。「洋服の着用」(28 人、27.5%)、「ワン・ツー (便、排尿)」(28 人、27.5%)、「清潔、衛生、におい」(24 人、23.5%)、「周囲の人への配慮」(22 人、21.6%)、「基礎訓練」(17 人、16.7%) と続く。
- ・全体の合計数が多くなっているように、ほとんどの人が複数マナーについて意識している。また、こうしたマナーは、日常的に行うようにアイメイト協会が指導している項目のため、特に意識している点に絞って回答し、あえてすべてを列挙しなかった人が多かったものと推察される。(設問が選択式でなかったこともバイアス要因。)

【表 8. アイメイト使用者のマナー】

■アイメイトと一緒に出掛ける際、使用者として気を付けていることは？

	人数	比率 (%)
ブラッシング	42	41.2
洋服の着用	28	27.5
ワン・ツー (便、排尿)	28	27.5
清潔、衛生、におい	24	23.5
周囲の人への配慮	22	21.6
基礎訓練	17	16.7
フードやタオル、水、敷物などを持参	11	10.8
アイメイトの安全	8	7.8
時間的な余裕	2	2.0
左側通行	6	5.9
その他	13	12.8
記入無	5	4.9
合計	206	202.0

※複数回答可

2) 大切なアイメイトの健康維持のために

- ・アイメイトの健康について気を付けていることも、マナー関連同様に多数の回答があった。
- ・使用者による日常的なケアの基本動作である「ブラッシング」が最多で32人(37.3%)。「便、排尿の状態、回数など」(36人、35.3%)、「食事」(29人、28.4%)、「歯磨き、耳垢、目やに、ツメなど」(29人、28.4%)、「被毛の状態、皮膚や腫瘍などのボディーチェック」(23人、22.6%)、「健診、獣医による診察」(21人、20.6%)と続く。

【表 9. アイメイトの健康管理】

■ アイメイトの健康管理で、日ごろから気を付けていることを教えてください。

	人数	比率 (%)
ブラッシング、シャンプー	38	37.3
便、排尿の状態、回数など	36	35.3
食事	29	28.4
歯磨き、耳垢、目やに、ツメなど	29	28.4
被毛の状態、皮膚や腫瘍などのボディーチェック	23	22.6
健診、獣医による診察	21	20.6
体重	18	17.7
体温	10	9.8
予防接種など	9	8.8
気温（寒暖）への対応	6	5.9
その他	14	13.7
記入無	1	1.0
合計	234	229.4

※複数回答可

4. 「障害者差別解消法」に期待すること

1) 「障害者差別解消法」に期待することは、

「入店拒否、乗車拒否が無くなること」と「お互いを尊重する共生社会」

- ・「障害者差別解消法」に期待することとしては、「入店拒否、乗車拒否が無くなること（29人、28.4%）」「お互いを尊重する共生社会（28人、27.5%）」という2つの分野に関する意見が多かった。
- ・また、「差別の解消（16人、15.7%）」「盲導犬に関する理解の拡大（14人、13.7%）」「社会参加の促進（13人、12.7%）」など、様々な場面での法的なバックアップに期待が寄せられている。
- ・その一方で、「特にない（19人、18.6%）」「あまり期待していない（7人、6.9%）」などと、法律だけで解消できるものではないのでは?といった懸念もにじんでいる。その背景には、意識の変革には、複合的な要素によってなされるといった感覚もあるものと推察される。

【表 10. 「障害者差別解消法」に期待すること】

■ 「障害者差別解消法」の施行によって、期待することはなんですか?

	人数	比率
入店拒否、乗車拒否が無くなること	29	28.4
お互いを尊重する共生社会	28	27.5
特にない	19	18.6
差別の解消	16	15.7
盲導犬に関する理解の拡大	14	13.7
社会参加の促進	13	12.7
バリアフリーの促進	7	6.9
あまり期待していない	7	6.9
社会啓発の促進	6	5.9
トラブルの迅速な解決	5	4.9
その他	4	3.9
記入無	15	14.7
合計	163	159.8

※複数回答可

2) 周囲の方へのお願いの最多は、アイメイトに「触らないでほしい」「声を掛けしないでほしい」

- ・アイメイト使用者からのお願いとしては、アイメイトに「触らないでほしい」「声を掛けしないでほしい」がともに最多で28人(27.5%)。
- ・次いで、「盲導犬について正しい理解をお願いしたい」「困っている時は手助けしてほしい」がともに14人(13.7%)であった。
- ・また、「黙って写真を撮らないでほしい(4人、3.9%)」「いたずらしないでほしい」(4人、3.9%)といった、周囲のマナーへのお願いもあった。

【表 11. 周囲の方へのお願い】

■アイメイトと一緒にいるからこそ、周囲の方をお願いしたいことはありますか？(具体的に教えてください。)

	人数	比率
触らないでほしい	28	27.5
声を掛けしないでほしい	28	27.5
盲導犬について正しい理解をお願いしたい	14	13.7
困っている時は手助けしてほしい	14	13.7
やさしく見守ってほしい	11	10.8
受け入れてほしい(入店拒否をしないでほしい)	7	6.9
食べ物を与えないでほしい	6	5.9
黙って写真を撮らないでほしい	4	3.9
いたずらしないでほしい	4	3.9
ワンツー場所がほしい	4	3.9
左側通行であることを理解してほしい。	2	2.0
その他	9	8.8
記入無(とくになし)	20	19.6
合計	151	148.0

※複数回答可

5. アイメイトを得たから出来ること

1) アイメイトを得て行けるようになった場所は「日常的に利用する施設」が最多

- ・アイメイトを得て初めて行けるようになった場所の最多は、役所、銀行、郵便局、図書館、駅、ショッピング、レストランなどの「日常的に利用する施設」(42人、41.2%)。視覚障害者にとって、一人で外出することが大変なことかが伺えると同時に、アイメイト協会が重視する“実用”の結果とも言えよう。
- ・この設問や次の設問(うれしかったこと)で特徴的だったのは、「散歩(気ままに移動)」(11人、10.8%)という回答が少なからずあったこと。晴眼者にとって特別な感じの無い「散歩」であるが、自分の気持ちだけで自由に移動できることは、非常に大きなことなのである。
- ・そうした意識は、次のような意見にも表れている。「白杖歩行では、初めての場所に行くときは同伴者を探してスケジュール調整をする必要があって外出を控えがちになっていた」「アイメイトがいることで『出かける』ということに抵抗が無くなった」「今まで一人で行動するのが億劫だったのですが、気軽に出られるようになった」。

【表 12. 初めて行けるようになった場所】

■アイメイトを得たことで、初めて行けるようになった場所はありますか? (いくつでも)

	人数	比率
日常的に利用する施設※	42	41.2
国内旅行	22	21.6
自分の行きたいところ(どこへでも)	18	17.7
趣味、コンサート、カルチャースクール、スポーツ施設、美容院、エステなど	16	15.7
病院	13	12.8
散歩(気ままに移動)	11	10.8
特になし	8	7.8
職場。遠方での講習会や研修会など	7	6.9
海外旅行(留学も)	5	4.9
白杖では危険を感じていたところ	3	2.9
その他	4	3.9
記入無	6	5.9
合計	155	152.0

※複数回答可

※日常的に利用する施設の具体例としては、役所、銀行、郵便局、図書館、駅、ショッピング、レストランなど

2) アイメイトを得て最もうれしかったことは、「自由な時間」(42.2%)

- ・アイメイトを得て最もうれしかったことの最多は、「自由な時間（ヘルパーさんの時間に制限されない）」(43人、42.2%)。安全を考えると、どうしてもヘルパーさんの時間や人の都合を気にしなければならなかったが、アイメイトを得たことで自由に行動できるようになったという。
- ・また、前問に引き続き、少なからず「散歩」が挙げられているのも特徴的な点。その際、「周囲の音や香り、風を切って歩く心地よさを楽しむ余裕が生まれた」といった意見があった。
- ・「その他」の中には、「盲人の友人を駅へ送り迎えできること」「アイメイトと一緒に」「心の癒し」といった意見もあった。

【表 13. 最もうれしかったこと】

■アイメイトを得たから出来るようになったことで、最もうれしかったことを教えてください。

	人数	比率
自由な時間（ヘルパーさんの時間に制限されない）	43	42.2
人間関係の広がり、周囲との良好な関係、人生の広がり	18	17.7
安全、安心	17	16.7
プライバシーの確保	15	14.7
自尊心の保持	13	12.8
きままな散歩	10	9.8
公共交通機関に乗れる	10	9.8
心の余裕	8	7.8
長時間、長距離の移動、旅行	7	6.9
スピーディーな歩行	6	5.9
通勤	4	3.9
空席を見つけられる	3	2.9
建物の入り口を見つけられる	1	1.0
その他	11	10.8
記入無	3	2.9
合計	169	165.7

※複数回答可

3) 今後のチャレンジは「旅行」が最多。うち、「海外旅行」も16人。

- ・今後、アイメイトと一緒に行ってみたいところとしては、国内外の旅行先が多数、具体的にあげられた。それを分類すると「国内旅行」が37人(36.3%)、「海外旅行」が16人(15.7%)。両者を合わせると、52.0%(53人)が旅行を希望している。
- ・具体的な行き先としては、「ハワイ」「メキシコ」「スペイン」「ヨーロッパ」「ノルウェー」「ロサンゼルス」「カシオペアで北海道へ」「沖縄」などが挙げられた。「船旅」や「温泉旅行」といった希望もあった。
- ・また、「趣味」の世界をもっと充実させたいという希望も6人(5.9%)あった。
- ・特に具体的な記入が無かった場合でも、「行きたいと思えばどこにでも自由に行ける」「具体的な場所はありませんが、アイメイトとならどこでも行けるでしょう」と、したいことが生じたら次々と実行している様子がうかがえた。
- ・また、「毎日が冒険で、パートナーがいることがとても精神面でも支えになっていると感じています」「できるだけ長くアイメイトと歩ける生活を続けたい」といった意見があった。

【表 14. 将来、チャレンジしたいこと】

■「今後、アイメイトと一緒に行ってみたいところはどこですか?あるいは、新たにチャレンジしたいことを教えてください。」

	人数	比率
旅行(国内)	37	36.3
旅行(海外)	16	15.7
趣味	6	5.9
その他	11	10.8
記入無(特になしを含む)	35	13.7
合計	105	102.9

※複数回答可

6. 回答者の分布（基本項目等）

1) 居住地域（都道府県）

- ・居住地域（都道府県）は、北は北海道から南は鹿児島県まで全国 21 都道府県から回答が集まった。

【表 15. 居住地域（都道府県）】

北海道地方	北海道
東北地方	福島県
関東地方	茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
中部地方	山梨県、新潟県、石川県、静岡県、岐阜県
近畿地方	大阪府
中国地方	広島県
四国地方	愛媛県、高知県
九州地方	佐賀県、熊本県、宮崎県、鹿児島県

2) 男女比

- ・男女比は、ほぼ半々となった。

【表 16. 性別】

性別	男性	女性	記入無	合計
人数	54	46	2	102
比率 (%)	52.9	45.1	2.0	100

3) アイメイト使用歴（年数/頭数）

- ・アイメイト使用歴（年数）は、「11～20年」が最も多く33人（32.4%）。次いで、「4～10年（28人）」「21～30年（15人）」「1～3年（11人）」と続く。
- ・アイメイトの頭数は、「2頭目」が最も多く32人（31.4%）。次いで、「1頭目（31人）」「3頭目（17人）」「4頭目（9人）」と続く。
- ・「41年以上」の使用者が3人いるが、彼らは、盲導犬に関する法整備などが未発達だった1970年代からの使用者であり、より開かれた社会を築くために協会や支援者とともに理解を訴えてきた方たちである。

【表 17. アイメイト使用歴（年数）】

	1～3年	4～10年	11～20年	21～30年	31～40年	41年以上	記入無	合計
人数	11	28	33	15	7	3	5	102
比率(%)	10.8	27.5	32.4	14.7	6.9	2.9	4.9	100.1

【表 18. アイメイト使用歴（頭数）】

	1頭目	2頭目	3頭目	4頭目	5頭目	6頭目	記入無	合計
人数	31	32	17	9	3	4	5	102
比率(%)	30.4	31.4	16.7	8.8	2.9	3.9	4.9	100.1

4) 年齢層

- ・年齢層は60代が最も多く、40.2%を占めている。次いで、50代・70代がともに17.6%、40代が11.8%となっている。

【表 19. 年齢】

	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	記入無	合計
人数	0	2	7	12	18	41	18	1	3	102
比率(%)	0	2.0	6.9	11.8	17.6	40.2	17.6	1.0	2.9	100

5) 障害の時期（中途/先天）

- ・先天と中途の別では、「中途」が73.5%とかなりの割合を占めている。

【表 20. 中途/先天】

	中途	先天	記入無	合計
人数	75	18	9	102
比率(%)	73.5	17.6	8.8	99.9

6) 職業

- ・職業は、「三療/マッサージ・指圧・鍼」が最も多く 27 人 (26.5%)。次いで、「無職 (22 人)」「会社員/団体職員 (12 人)」「主婦 (11 人)」と続く。

【表 21. 職業】

職業	人数	比率
三療/マッサージ・指圧・鍼	27	26.5
無職	22	21.6
会社員/団体職員	12	11.8
主婦	11	10.8
自営業	8	7.8
公務員	3	2.9
教員、講師	2	2.0
医師	1	1.0
議員	1	1.0
音楽家	1	1.0
その他	4	3.9
記入無	10	9.8
合計	102	100.1

以上